

# サッカーと子供の成長の関係性

## Relationship between soccer and growth of children

1K06A0412

指導教員 主査 岡浩一朗先生

海老名 隼樹

副査 堀野博幸先生

### 【序論】

自分自身の成長はサッカーと共にあったと感じている。少なくともサッカーをやっていないければつかめなかった真実が私にはある。スポーツは子供を成長させるのではないか、私自身が関わってきたサッカーに焦点を当て、サッカーが子供を成長させることを立証しようとした。

### 【第一章 サッカーとは】

サッカーの母国イングランドでは「フットボール」という言葉は、13世紀ごろから散見されるという。イギリスのパブリック・スクールでは、各学校のルールで、フットボールが行われていた。1963年10月、ロンドンと外クラブの代表者が集まり、『フットボール・アソシエーション=FA』を設立し、12月にはルールが統一された。一方日本では、1873年、イギリス海軍軍人の少佐と、33人の部下たちによって紹介された。ここから1993年にJリーグができ、日本のサッカーは大きく成長していった。そこではしっかりとしたルールもできていった。

### 【第二章 子供の成長】

学校教育と子供の成長には教師の生徒に対しての向き合い方で変わってくる。さらに、子供の成長は学校教育だけでは行き届かないところが出てくるかもしれない。そこで必要になってくるのが地域社会の役割だ。地域のスポーツ少年団が存在意義は大きい。

### 【第三章 サッカー教育の変遷 時代での教え方の変化】

スパルタの練習と科学的根拠のある練習の違いを検証した。スパルタな時代は根性論が一般的だ。しかし、現在になると科学が進歩してきて、スパルタは消えかけている。これはいいことかもしれないが、その弊害はないのだろうか。どちらの指導法がいいのかを考えていく。

### 【第四章 サッカー教育の上で活目すべき指導者たち】

松本育夫という早稲田大学ア式蹴球部卒業の先輩がいる。この人は、妥協というものを一切しなかった。常に一生懸命にプレーし、指導していた。この松本育夫の教えに、子供は成長していた。小嶺忠敏という国見高校をサッカーの名門にした人がいる。その人には子供への愛情があり、サッカーの指導だけではなく、子供たちの成長に大きくかかわっていった。この二人には『子供たちのために』自分を犠牲にしてまでサッカーの指導を行ったのである。

### 【第五章 私自身が18年間サッカーをやってきたの出会い、影響、成長】

お世話になったコーチ、監督はどのように指導をしているのか、質問しに行った。そして、サッカーと子供を成長について尋ねた。年代によって精神的な違いがあると思い、どのように指導すれば、子供たちは育つのか、やる気がないのとあるのでは成長のスピードが異なってくるのか、そこでやる気を上げるために何をして

いるかを聞いてみた。この卒論のテーマでもある根本だと思う。今現在子供たちの指導に当たっている、現場での指導者の意見を聞いた。

#### 【第六章 終わりに】

サッカーには子供を成長させることがたくさんある。その中でも、人との出会いが一番素晴らしいものだった。いい先生に出会い、いい監督に出会い、いい仲間巡り合ってサッカーをして、人間的に成長していくのだと思う。サッカー、スポーツには子供たちを大人へと成長させる要素がある。